

2024年度 交流助成 成果報告（海外派遣）

2025年 6月 6日

所属：早稲田大学 人間科学学術院

氏名：土屋 彩茜



会議等名称 INSAR2025

開催地 Seattle, WA, USA

期 日 2025年4月29日～5月3日

1) 会議（研究会）の概要

INSAR 2025 は、国際自閉症研究協会(the International Society for Autism Research, INSAR)が主催する年次総会で、2001 年に初開催されて以来、毎年 5 月に開催されています。INSAR は世界的な自閉症研究の協会で、最高品質の自閉症研究を世界的に促進し広めることを目標としています。その一環として、ハイインパクトジャーナルである Autism Research を出版しているほか、アーリーキャリア研究者への支援や文化的多様性の促進にも注力しています。年次総会は、自閉症研究に特化した世界最大規模の国際会議であり、自閉症成人を対象にした医学的、認知的、行動的研究に加え、23 の幅広いトピックを扱っています。本会議は、世界中の自閉症研究者が分野や方法を超えて最新の科学的知見を共有し、学術的な交流を深める場として重要な役割を果たしています。

2) 会議（研究会）で発表した研究テーマとその討論内容

Implicit Preference for Communication Among Adults with Autism Spectrum Disorder Using the Implicit Association Test という題目で、ポスター発表を行いました。本研究では、潜在連合テスト (Implicit Association Test, IAT)という心理学的手法を用いて、コミュニケーションに対する潜在的な選好を定量化し、定型発達群と自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder, ASD)群で比較しました。今回発表したポスターでは、IAT で評価した潜在的なコミュニケーションの指標 (IAT 得点)と、自閉症指数 (AQ) および対人応答性尺度 (SRS-2)で評価した明示的評価との関連性を報告しました。また、IAT 得点と、ウェルビーイングおよび孤独感との関連性についても報告しました。報告の中で、定型発達群では、IAT による潜在的評価と明示的評価との間に一貫性が見られるのに対し、

ASD 群では両者の間に乖離が生じる可能性を示唆しました。ポスター会場では、こうした乖離が生じる背景要因や、文化的背景の違いによる影響について、会議参加者と議論を行いました。ここでの議論は、ASD 者が潜在的に抱えているウェルビーイング低下の要因を明らかにすることに繋がることが期待されます。

3) 出席した成果（ご自身の研究のみならず、他の研究者との交流を通じて得たものがあれば具体的に報告して下さい。）

本会議は、グループワーク形式のセッションが複数用意されており、他の研究者との交流がしやすい環境でした。そのうち、ASD 者が直面している偏見をどう軽減できるかについてのセッションと、多言語コミュニティにおける支援についてのセッションに参加することで、日本とは異なる国や地域で直面している課題の多様性に触れることができました。また、共同研究者と対面で会うことが叶ったほか、上記セッションで知り合った研究者の人と自身のポスターについて議論する機会を得るなど、国際的なネットワークの構築に繋がる機会となりました。

4) その他

学会への参加後、南カリフォルニア大学でニューロリハビリテーションの研究をしている方のラボへ訪問させていただきました。運動制御の研究で用いる実験装置を見学するとともに、神経科学・工学・臨床の融合について議論を交わし、大変刺激を受けました。本会議への参加およびラボ訪問の機会を得るにあたり、多大なご支援を賜りました公益財団法人中谷財団に、心より感謝申し上げます。

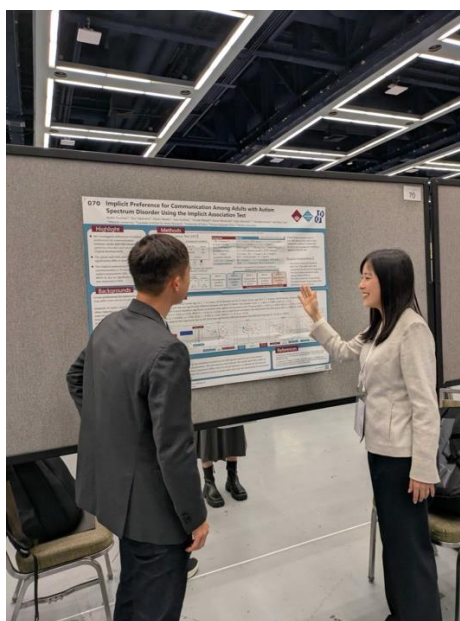


図 1：ポスター発表の様子



図 2：会場の様子

当事者も多く参加している会議であったため、聴覚過敏のある方への配慮として、
拍手の代わりに手を挙げて振ることが推奨されていました（右）。



図 3：訪問先である南カリフォルニア大学の様子